

奥村雄樹が自作《ジュン・ヤン 忘却と記憶についての短いレクチャー》を上映し、平倉圭と星野太が同作について対話する会

[日時] 2012年11月24日(土) 15:00より(開場14:30、終了17:00予定) (無料)

[会場] 東京都現代美術館 地下二階 講堂

[上映作品データ] 2011/HDビデオ/27分39秒/カラー/日本語音声/英語字幕

協力: ジュン・ヤン、小林禮子、藤井光、荒木悠ほか/Courtesy of the artist and MISAKO & ROSEN

[登壇] 平倉圭、星野太

奥村雄樹

1978年生まれ。芸術家、翻訳家。2012年の発表に《シンクロナイズド・スニージング》(『ARAKAWA HIRATA OKUMURA TANAKA』ラスター、ワルシャワ)、《河原温の純粹意識 あるいは多世界(と)解釈》(『14の夕べ』東京国立近代美術館)、《知らないことを思い出す(芸術家の幽霊)》(『MOTアニュアル2012』東京都現代美術館)、《くろうそうかいぼうがく》(広島市現代美術館/バーゼル大学解剖学博物館/東京都現代美術館/丸亀市猪熊弦一郎現代美術館ほか)、《多元宇宙の缶詰》(blanclass、横浜)、《善兵衛の目玉(宇宙編)》(愛知県美術館、予定)などがある。
<http://yukiokumura.com/>

平倉圭

1977年生まれ。芸術論・知覚論。横浜国立大学教育人間科学部准教授。著書に、『ゴダールの方法』(インスクリプト、2010年)、『ディスポジション:配置としての世界』(共著、現代企画室、2008年)、『美術史の7つの顔』(共著、未来社、2005年)。主な論文に、「断層帯を貫通する—『熱海線丹那隧道工事寫真帖』」(『photographers' gallery press』、no.11、2012)、「多重周期構造—セザンヌのクラスター・ストローク」(『ユリイカ』、2012年4月号)、「識別不可能性の〈大地〉—ジル・ドゥルーズ『シネマ2*時間イメージ』」(『思想』、vol.999、2007年)。主な作品に、《テキスト、山、準-部分》(『Variations on a Silence』展(リーテム東京工場)、2005年)。
<http://hirakurakei.com/>

星野太

1983年生まれ。美学・表象文化論。東京大学・共生のための国際哲学研究センター(UTCP)特任助教。論文="Words and Passions in Edmund Burke" (*Aesthetics*, no.16, 2012), "Enlightenment within the Limits of Reason Alone" (*UTCP Booklet 21*, 2011) など。翻訳=クレア・ビショップ「敵対と関係性の美学」(『表象05』、2011年)、ハル・フォスター「民族誌家としてのアーティスト」(石岡良治との共訳、『表象05』、2011年)、ダニエル・ヘラー=ローゼン「万人の敵」(宮崎裕助との共訳、『現代思想』、2011年7月号)など。奥村雄樹の《ジュン・ヤン 忘却と記憶についての短いレクチャー》を中心に論じた単著を美学出版から近日刊行予定。
<http://starfield.petit.cc/>

MOTアニュアル2012 Making Situations, Editing Landscapes 風が吹けば桶屋が儲かる 関連プログラム
同時開催: 奥村雄樹「通訳者のメモ」展(東京都現代美術館1Fホワイエ、2012年11月23日~12月2日)